

2025年10月27日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美
 (TEL： 078-302-7075)

キナーゼのATPase活性に関するAACR-NCI-EORTC International Conference on
 Molecular Targets and Cancer Therapeuticsでの発表のお知らせ

当社は、キナーゼのATPase活性に関する研究成果について、2025年10月22日から10月26日まで米国マサチューセッツ州ボストンで開催されたAACR-NCI-EORTC International Conference on Molecular Targets and Cancer Therapeuticsでポスター発表しましたので、その概要をお知らせいたします。

本研究は、当社創薬支援事業において実施され、その成果は、創薬研究におけるプロファイリングやスクリーニング、またリード化合物の最適化において、キナーゼ阻害剤の活性を正確に評価するための重要な知見を提供するものです。

本発表を通じて、キナーゼに関する当社の技術力と研究開発力を国際的に発信し、当社製品・サービスの品質の訴求、認知度向上、新規顧客の獲得につながることが期待されます。今後も当社は、キナーゼに関する高度な技術と知見を活用し、医薬品開発の効率化と精度向上に貢献してまいります。

発表の概要

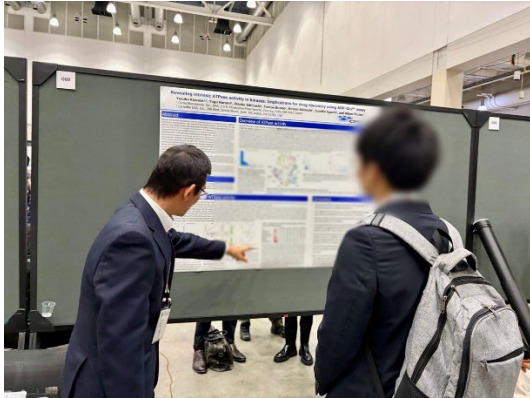
ポスタータイトル	Revealing intrinsic ATPase activity in kinases: Implications for drug discovery using ADP-Glo assay
発表者	Yusuke Kawase ¹ , Yugo Narumi ¹ , Etsuko Ishibushi ¹ , Tomoe Bunno ¹ , Hiromi Akimichi ¹ , Adam Shutes ²

¹Carna Biosciences, Inc., Kobe, Japan, ²CarnaBio USA, Natick, MA.

- キナーゼ活性とは、ATPからリン酸基を取り出し、基質に付加してリン酸化を促すキナーゼの機能を指します。このリン酸化反応は、細胞内シグナル伝達において重要な役割を担っており、多くの疾患に関与しています。
- 一方で、キナーゼには、基質のリン酸化反応を伴わずにATPからリン酸基を分解する「ATPase活性」が存在することも知られています。
- そこで、本研究では、キナーゼ阻害剤の活性評価などにおいて、キナーゼ活性と明確に区別する必要があるATPase活性に着目し、当社が製造・販売する約300種類のキナーゼタンパク質を対象に、

ADP-Glo™試薬（Promega Corporation）を用いて、ATPase活性を網羅的に測定・評価しました。

- その結果、約10%のキナーゼにおいて、顕著なATPase活性が認められ、キナーゼ活性評価の際にはATPase活性を考慮する必要があることが示唆されました。さらに、本研究では、ATPase活性に対するキナーゼ阻害剤の影響についても検討し、報告しています。



AACR-NCI-EORTC International Conference on Molecular Targets and Cancer Therapeutics
ポスター発表の様子

以上